

## IB-9

### 全日本柔道選手権大会における体格差が勝敗に及ぼす影響： 2008年から2016年を対象として

○三宅恵介（中京大学），佐藤武尊（皇學館大学），横山喬之（摂南大学），  
秋本啓之（了徳寺学園）

【目的】日本の柔道家は，全日本柔道選手権大会（以下，全日本選手権）の体重制限のない（以下，体重無差別）試合方式に柔道の意義を見出している（生田，2012）。松井ほか（1991）は，1980年から1989年までの全日本選手権を対象に，身長差や体重差が勝敗に及ぼす影響について検証し，軽量者にも十分な勝機があることを報告しているが，近年の全日本選手権を体格差の観点から論じた研究はみられない。そこで本研究では，2008年から2016年までの全日本選手権を対象として，体格差が勝敗に及ぼす影響についての知見を得ることを目的とした。

【方法】対象の試合は，2008年から2016年に行われた全日本選手権の344試合である。分析方法は，試合の勝者における身長差（「高い」「低い」「差なし」と体重差（「重い」「軽い」「差なし」との関係について，また，体格差（「高重」「高軽」「低重」「低軽」と勝利内容（「一本勝ち」「優勢勝ち」），勝利方法（「技勝ち」「罰則勝ち」「判定勝ち」），組み手（「相四つ」「ケンカ四つ」），技ポイント（「得点」「失点」），罰則ポイント（「得点」「失点」）との関係について，それぞれカイ2乗検定と残差分析を行った（ $p < 0.05$ ）。

【結果および考察】試合の勝者における身長差と体重差の間には有意な関係が認められ，「高重」の選手および「低軽」の選手が勝利する割合が多いことが明らかになった（表1）。また，体格差と勝利方法との間，罰則ポイントとの間に有意な関係が認められ，「低重」の選手は「判定勝ち」の割合が多く「罰則勝ち」の割合が少ないこと，「低重」の選手および「低軽」の選手は罰則ポイントを「得点」する割合が少なく「失点」する割合が多いことが明らかになった。一方，体格差と勝利内容，組み手，技ポイントとの間に有意な関係は認められなかった。

以上の結果から，体格差は試合の勝敗に影響を及ぼしていることが示唆された。特に，身長の低い選手がその影響を受けていると推察される。しかしながら，「低軽」の選手が勝利する割合が多かったことから，全日本選手権ならではの体重無差別の醍醐味は失われていないと考えられる。

表1 試合の勝者における身長差と体重差との関係

		身長差			合計
		高い	低い	差なし	
体重差	重い	140 (70.0%)▲	46 (37.7%)▽	11 (50.0%)	197 (57.3%)
	軽い	49 (24.5%)▽	70 (57.4%)▲	10 (45.5%)	129 (37.5%)
	差なし	11 (5.5%)	6 (4.9%)	1 (4.5%)	18 (5.2%)
合計		200 (100.0%)	122 (100.0%)	22 (100.0%)	344 (100.0%)

カイ2乗値 = 36.3,  $p < 0.05$  ▲:有意に多い( $p < 0.05$ ) ▽:有意に少ない( $p < 0.05$ )